



## 南葵音楽文庫ミニレクチャー 佐藤春夫の詩と音楽

林 淑 姫

### 南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

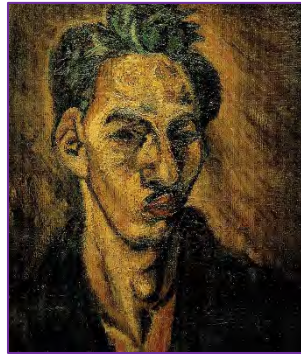
2020年1月18日（土）11:00

南葵音楽文庫閲覧室（和歌山県立図書館内）

佐藤春夫の詩の魅力は清雅な語句と伝統的な形式を自在に駆使して表現される端正さにある。あふれる詩想は詩人の中に豊かにたくわえられた古今東西の詩的形式のいずれかを選択して表現される。整えられた調べにひそむときすまされた感性は時代を生きる彼固有のものであり、清新な抒情性は古典的な美しさを湛える。彼の詩は本人が言っているように「視覚的」だが、同時に（本人は言わないが）、読み手の聴覚を刺激する。よい耳をもっていた佐藤春夫の詩は福永武彦が比喩的に述べているように、作曲家が曲想とともに楽器を選んで創作にかかるように語法や形式、構成を選ぶ。佐藤春夫の詩と音楽を考察するにあたって、1. 佐藤春夫の音楽観 2. 佐藤春夫の詩の音楽性 3. 楽曲化された佐藤春夫の詩と音楽を論点とする。



佐藤春夫  
1892.4.9-1964.5.6  
(佐藤春夫記念館蔵)



自画像(1915)  
第2回二科展入選  
(『殉情詩集』口絵)

佐藤春夫（明治 25.4.9-昭和 64.5.6）

詩人、小説家、評論家。和歌山県東牟婁郡新宮町船町生れ。佐藤家は代々医家を業とする土地の名家。父豊太郎は俳句、和歌をたしなむ文人としても知られた。早くから文学を志す。明治 43（1910）年、新宮中学校卒業後上京。『スバル』『三田文学』を発表の場として詩、評論を発表。大正 7（1918）年、小説『田園の憂鬱』を発表し、新進作家として地位を確立。大正 10 年、第一詩集『殉情詩集』を刊行。以降、詩、小説、評論、評伝、童話、戯曲、随筆など多彩な分野に名作を残した。



『殉情詩集』  
(新潮社 1921.7)  
第一詩集。33 篇収録。  
(和歌山県立図書館蔵)



『佐藤春夫詩集』（第一書房 1926.5）  
左は外函  
(『新潮日本文学アルバム 佐藤春夫』掲載)



訳著『支那歴朝名媛詩鈔  
車塵集』  
(武蔵野書院 1929.9)  
(『新潮日本文学アルバム 佐  
藤春夫』掲載)

別添資料: 資料編、「佐藤春夫の詩による音楽作品（稿）」ほか

【資料】

音楽的な作品、芸術の宗教的な意義

近頃文壇では主題（テーマ）と云ふ事が大分重んじられて居る様な様子である。それも仲間結構な事ではある。然し、私は別段テーマなどと云ふ物がなくつても、芸術は成立つ様に思ふ。而してさう云ふ藝術をも重んじて貰ひたいと思ふ。

例へば、音楽には或心持がある許りで、別段何も理知的なテーマと云ふ様なものはなさうに思ふ。然し、矢張り立派に藝術として人の心を動かして居る。

私は其の音楽の様な意味がなくつて心持だけある作品を作つて見度いとよく思ふ。それには矢張り音楽が一番いゝのであらう。けれども自分は音楽の事は解らない。だから文学でやつて見るより仕方がない。若し画で描くとすれば、唐草模様などは、最も適当に心持ちを一つの形にみせることに適当して居る様に思ふ。（『雄弁』1919年3月。『定本佐藤春夫全集第巻』（臨川書店）所収）

断章（秋くさ） 『殉情詩集』（『佐藤春夫詩集』第一書房）

さまよひくれば秋ぐさの（秋くさの）  
一つのこりて咲きにけり  
おもかげ見えてなつかしく  
手おればくるし、花ちりぬ。

男のうたへる（二つの小唄） 『殉情詩集』

ひとりものかや二十日月 海の夜あけにのこりたる

うぐひす 『佐藤春夫詩集』

君を見ぬ日のうぐひす。  
海近き宿のうぐひす。  
波の音にまじりなくよ。うぐひす。  
ひねもす聞くよ、うぐひす。  
うぐひす。うぐひす。うぐひす。

テキストは『定本佐藤春夫全集』（臨川書店）による。